

Strategic Focus

中期経営計画

4つの価値創造に向けたアクション

中期経営計画 現在の注力ポイントと進捗状況

着実な成果を上げた2021年3月期

中期経営計画「Chapter I」は、2023年3月期を最終年度とし、長期ビジョンの掲げる4つの価値創造の実現に向け、その基盤となる各種施策に取り組んでいます。2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症拡大により一部影響を受けた施策

もありましたが、建設事業のDX化推進、LCS事業の開始に加え、安定収益確保、事業構造変革に向けた成長投資の開始など、おおむね着実な初動展開を達成できました。

2021年3月期 進捗状況

 お客様 価値の創造	技術開発等 <ul style="list-style-type: none">山岳トンネル統合型掘削管理システム、自律走行式ひび割れ検査ロボット等の生産性向上、低コスト、短工期、高品質に資する技術を開発コスト競争力の向上を目的とした、当社グループ3か所目の新PCa工場の整備技術開発力の強化に向け、技術研究所の施設更新を計画
	LCS (ライフサイクルサポート) 事業 <ul style="list-style-type: none">LCS事業本部の設立による体制整備、取り組み開始
 株主 価値の創造	安定収益確保、事業構造変革 <ul style="list-style-type: none">技術開発、PCa工場および収益物件の取得など、約50億円の成長投資を実施保有資産の有効活用、収益物件化に向けて支店ビルのFM (ファシリティマネジメント) 事業を計画
	株主還元 <ul style="list-style-type: none">2020年11月より1年間で100億円を上限とする自己株式の取得を決定 (2021年3月末時点で約49億円)配当 (年間配当 30円/株) と自己株式の取得により、総還元性向61.9%
 環境 価値の創造	再生可能エネルギー事業等 <ul style="list-style-type: none">国内外における再生可能エネルギー事業への参画を計画建築事業と連携して、太陽光ESP (エネルギーサービスプロバイダ) 事業への取り組み開始・事業化に目途SBTやRE100の計画に基づき、再生可能エネルギーの利用拡大に向けた取り組みを推進 (SBT (Scope1+2) およびRE100の各目標については、おおむね計画通り推移)
	環境配慮技術への取り組み <ul style="list-style-type: none">技術研究所等、当社保有施設を活用したZEB化や次世代エネルギー管理システムの実証開始建築施工物件で、ZEB Ready認証、およびCASBEEスマートウェルネス最高ランク認証を取得
 従業員 価値の創造	働き方改革 <ul style="list-style-type: none">健康経営への取り組みを推進2021年度末までに週休二日の定着に向けた施策継続テレワーク制度の導入や、サテライトオフィスの運用等、新型コロナウイルス感染防止対策を含む新しい働き方とオフィス環境整備への取り組み
	ダイバーシティ <ul style="list-style-type: none">女性活躍支援に向けたキャリア形成支援研修を開催

さらなる加速を目指す2022年3月期

3か年計画の2年目として、前年度に開始した施策の着実な推進を図るとともに、近年社会的要望が高まり続けているESP(エネルギーサービスプロバイダ)事業など再生可能エネルギー事業への参画ならびに自社の脱炭素化、防災・減災技術の開発、技術研究所施設の更新などの施策を強化し、

これらへの成長投資も加速します。また健康経営のさらなる推進や新型コロナウイルス感染防止対策の徹底、多様な働き方を促す人事制度の整備などにも継続的に経営資源を投入する方針です。

2022年3月期 実施見通し

- ▶ BIM活用によるフロントローディング推進ほか、建設事業のDX化を推進し、生産性、品質向上に資する取り組みを継続
- ▶ PCα工場の拡充によるプレキャスト製品の製造力強化、自社調達促進
- ▶ 防災・減災や、環境配慮型技術等、当社技術力の向上を目指した技術研究所施設の更新(大型振動台他)
- ▶ 新築部門との連携、ワンストップサービスの展開による、LCS事業(リニューアル、維持管理)の拡充、顧客基盤の拡大
- ▶ 2023年3月期までの2年間で約200億円の成長投資を計画・実施
- ▶ 東北支店ビルのFM事業の着手(他の支店ビルについても順次検討)
- ▶ 前期からの自己株式取得を継続し、51億円分を取得予定。自己株式の取得は継続的に検討し、機動的に対応
- ▶ 安定配当(年間配当30円/株を予定)と自己株式取得により、高い還元性向を維持
- ▶ 国内外の再生可能エネルギー事業は、引き続き参画、事業化に向け具体的な検討を継続
- ▶ 太陽光ESP事業を積極的に推進し、事業量を拡大
- ▶ 引き続き、全社的に気候変動対策への取り組みを計画的に推進、強化
- ▶ 次世代エネルギーマネジメントシステム、ZEB技術の実案件適用に向け実証試験と効果の検証を継続
- ▶ 自社物件も含めZEB等の環境技術(実績)のさらなる蓄積・展開
- ▶ 健康経営の促進継続、「ハラスメント防止宣言」を踏まえた施策の強化
- ▶ 週休二日は当期達成に向け施策を継続
- ▶ 生産性の高い新しい働き方に向けて、制度拡充、ペーパーレス化推進、通信等の環境整備、および新型コロナウイルス感染防止対策の徹底継続
- ▶ 新たに策定した5か年の行動計画に基づく女性活躍支援策の継続

注力施策に見る、価値創造のポイント①

工事の省力化に貢献する技術開発

お客様価値

従業員価値

建設業において技能労働者不足が懸念される中、工事の省力化や検査業務の効率化が喫緊の課題となっています。

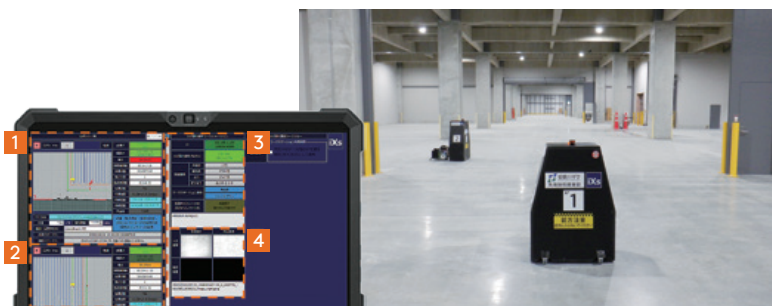
工事の省力化や検査業務の効率化は、従業員価値の向上に

大きく貢献するだけでなく、お客様価値の向上ひいてはさまざまなステークホルダーの価値にもつながります。

2021年3月期 成果事例 「自律走行式ひび割れ検査ロボット」

当社は株式会社イクシスと共同で、大空間構造物の床面におけるひび割れ検査において、軽量の走行台車型の検査ロボットが自律走行、自動撮影を行い、同時にAIにより撮影画像からひび割れを検出する「自律走行式ひび割れ検査ロボット」を開発しました。

そして、本ロボットを活用した新しい検査手法を確立し、建築現場における竣工時の床面ひび割れ検査に適用して、その効果を確認しました。



「自律走行式ひび割れ検査ロボット」制御画面

「自律走行式ひび割れ検査ロボット」現場適用状況

1 ロボット情報 (1号機)

ロボットの状態／走行位置 (図面)／検査終了予定時間
ストロボの光量／シャッタースピード など

2 ロボット情報 (2号機)

下にスクロールで、最大24台まで表示可能

3 ひび割れ検出状況 (ワークステーション)

ワークステーションの状態／未検出画像枚数／検出済画像枚数
検出終了予定時間 など

4 ひび割れ検出結果 (ワークステーション)

撮影画像 (上段)／ひび割れ検出画像 (下段)

注力施策に見る、価値創造のポイント②

低・脱炭素事業の加速

環境価値

事業の低炭素化は、業種を問わない経営課題となっており、ZEBやCASBEEといった環境配慮型技術を取り入れた建築に期待が寄せられています。さらには脱炭素サービスも急速に需要が顕在化しており、当社では、お客様の敷地などに当

社負担で太陽光発電設備を設置、自家消費していただく、PPAモデルによる太陽光ESP事業への取り組みを開始しています。

2021年3月期 成果事例 新電元工業 朝霞事業所

2021年2月に完成した同事業所は、エネルギー削減率52%の実現によりZEB Ready認証を取得、また、CASBEEスマートウェルネスオフィス認証で最高のSランクも取得しました。エネルギー消費を抑制しながら快適・クリーンな居住環境を維持する空調システムを備え、また、視覚効果を解析することで照度を抑えて最適な明るさを提供する照明システムなどにより、省エネと知的生産性の向上を実現しています。



新電元工業 朝霞事業所

さらなる価値創造に向け

コアSDGsの設定、KPIの開示

4つの価値創造テーマの持つ社会インパクトの可能性を十分に発揮するため、それぞれのマテリアリティに対して、優先的に貢献を目指す「コアSDGs」を設定しました。SDGs達成に向けた当社の行動内容を明確にしつつ、中期経営計画「Chapter 1」の非財務パフォーマンスの向上を目指します。

また、マテリアリティに即したサステナビリティ戦略の実行の可視化に向けて、コアSDGsに則したKPIを開示しました。

今後、当社が財務・非財務一体で展開する「社会・環境インパクト戦略」の中心的指標として、PDCAの実践へと大きな役割を担います。

優先して取り組むコアSDGs、KPI

マテリアリティ CSR重要テーマ 関連SDGs	施策ポイント	コアSDGs	KPI	数値目標	達成年度	具体的な方策
社会課題の解決と社会への価値創造 CSR重要テーマ ■ 社会やお客様の満足と信頼獲得 ■ 地域社会との調和 	▶ 先進的で高品質なソリューションでインフラづくりを革新する ▶ レジリエントで先進的な生活・経済基盤を世界に提供し続ける		■ 生産性向上 ■ 特許出願件数	10%以上 (2020年度比) 75件/年	2025年 2025年	■ 省力化、自動化や防災減災に資する技術研究開発 ■ ライフサイクルサポート事業の強化 ■ 社会貢献活動、文化貢献活動の推進
			■ 現場見学会実施数 ■ 環境社会貢献活動(ボランティア活動、清掃活動参加など) ■ 土木作業所 ■ 建築作業所 ■ オフィス	100回以上/年 3件/作業所 3件/作業所 80件/年	— 2021年	
地球環境の保護と調和 CSR重要テーマ ■ 豊かな環境づくり 	▶ 自社の環境負荷低減(低炭素、高循環、生物多様性保全)を継続徹底する ▶ 社会の環境負荷低減に貢献するサービスを積極開発する		■ CO ₂ 排出削減率(Scope1+2) ■ 建築環境総合性能評価システム(CASBEE簡易版)での評価Aランク以上の割合	33% (2017年度比) 60%以上	2030年 2021年	■ 自社の低炭素化の推進 ■ 省エネソリューション提供 ■ 自社利用電力の再生可能エネルギー化 ■ クリーン技術への投資 ■ 環境パトロールの強化 ■ 現場での低負荷・高循環化の推進、廃棄物の削減 ■ LCA(ライフサイクルアセスメント)の展開
			■ ZEB提案件数 ■ 再生可能エネルギー電気利用割合	5件 80%	2021年 2030年	
			■ 重大な環境事故 ■ 建設廃棄物の再資源化推進(土木)混合廃棄物総排出量の削減 (建築)新築工事での混合廃棄物の発生原単位の削減	0件 1t/施工高(億円) 7kg/延床面積(m ²)	— 2021年	
サステナブル経営の推進と責任の徹底 CSR重要テーマ ■ 公正で誠実な企業活動 ■ 安全で働きやすい労働環境 ■ ステークホルダーとのコミュニケーション 	▶ 多様性が尊重され、個性や能力が発揮される職場を整備する ▶ 権利を尊重し、安全・健康に働ける事業慣行を徹底する		■ 重大な労働災害 ■ 度数率	0件 0.40以下	— —	■ 労働災害の防止 ■ 健康経営の推進 ■ 女性の雇用拡大 ■ 公正で働きがいのある仕事、処遇改善、人財育成
			■ 女性従業員比率(定年制社員)	15%以上	2025年	■ コンプライアンス徹底
			■ 4週8閉所実施率 ■ CCUSカードタッチ率* ■ 情報セキュリティ講習受講率 ■ コンプライアンス研修受講率	100% 40% 100% 100%	2021年 2021年 — —	

* CCUS(建設キャリアアップシステム): 技能者の現場における就業履歴や保有資格などを技能者に配布するICカードを通じ、業界統一のルールでシステムに蓄積する仕組み
 カードタッチ率(就業履歴蓄積率)は、CCUSカードのカードリーダーへのタッチ等をして工事現場へ入場した技能者の数÷工事現場へ入場した技能者の数で算出